

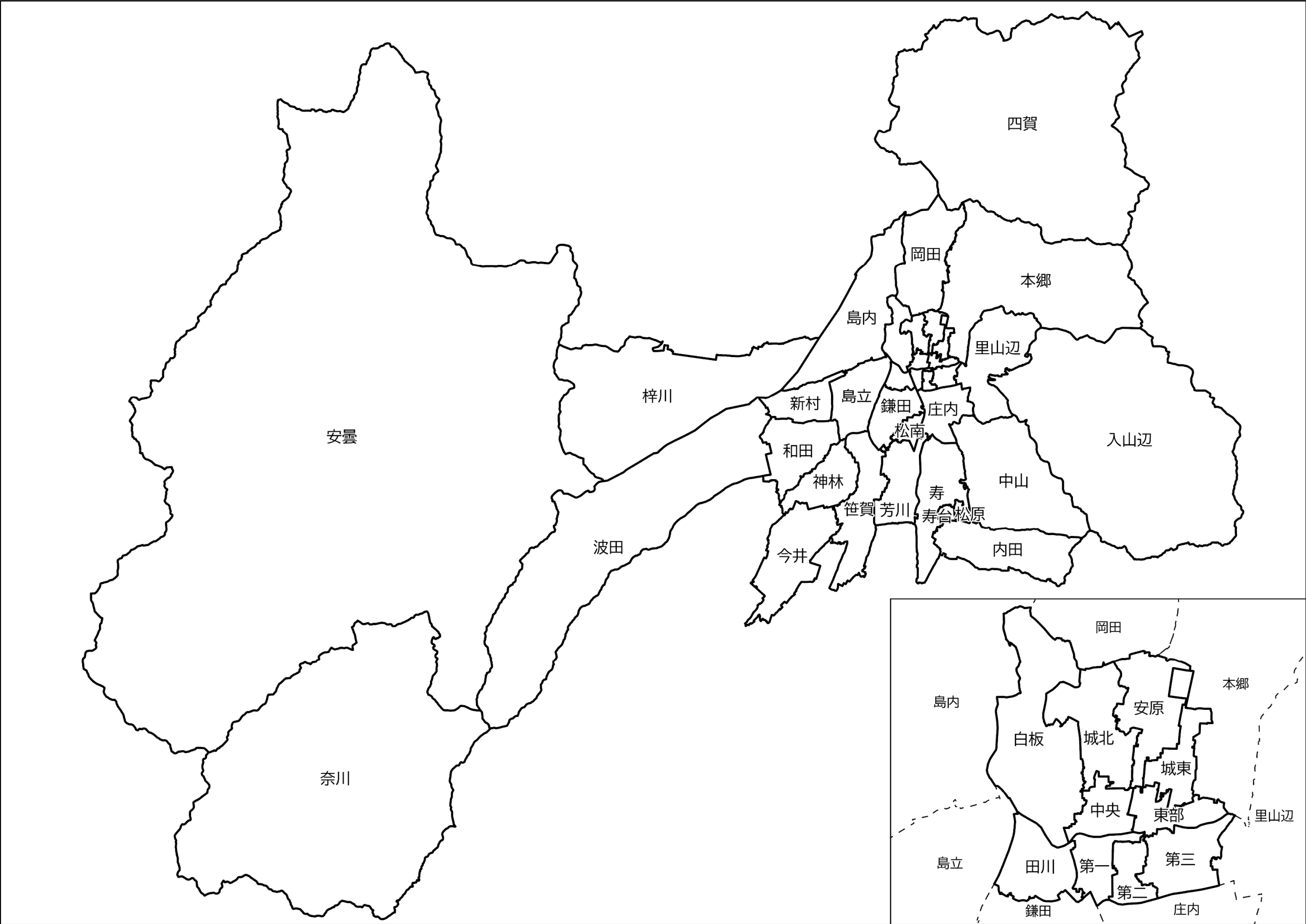
地区別防災カルテの解説・使い方

令和 8 年 3 月

松本市

田川地区

地区境界



※地区境界は変更になることがあります。現状と必ず一致するものではありません。

1. 地区別防災カルテ作成の目的

松本市は、これまで台風や梅雨前線による豪雨時に河川の氾濫や土砂災害がたびたび発生しています。そのため、防災・減災の取り組みを充実させることが必要不可欠です。

地区別防災カルテは、災害時に地域が、家族が、個人が、どのように行動をすればよいか、また、災害発生前にどのような備えをしておけばよいかを考えるために活用する資料です。

過去の主な災害	
種類	名称
水害	① 昭和 20 年 10 月大雨
	② 昭和 36 年 9 月第 2 室戸台風
	③ 昭和 57 年 9 月台風 18 号
	④ 平成 11 年 6 月梅雨前線豪雨
	⑤ 平成 18 年 7 月豪雨
	⑥ 平成 23 年 6 月大雨
	⑦ 平成 23 年 9 月台風 15 号
	⑧ 令和 3 年 8 月停滞前線による大雨
土砂災害	① 1847 年善光寺地震による山崩れ
	② 昭和 58 年 9 月台風 10 号による土石流
	③ 平成 16 年 10 月台風 23 号による土砂流出
	④ 平成 18 年 7 月豪雨による土砂崩落・土砂流出
	⑤ 平成 23 年 6 月大雨による土石流
地震災害	① 直下型の地震:1847 年善光寺地震、2011 年長野県中部地震など
	② 海洋性の地震:1854 年安政東海地震など
	③ 群発地震:1965 年～松代群発地震など

地区別防災カルテとは？

病院や診療所で診察を受けるとき、医師は**カルテ**に患者の病状や処置、経過等を記録します。患者の病状を地区の災害危険性、処置や経過を避難訓練や防災施設の整備ととらえ、防災に関する情報を記録したものが「**地区別防災カルテ**」になります。

地区別防災カルテには、松本市ハザードマップ(防災マップ)には載っていない地震等の被害想定結果も掲載しています。地区ごとに被害の特徴を把握して、防災対策に役立てましょう。

2. 様式について

地区別防災カルテは、次の3種類の様式で構成されます。		
	名称	主な内容
様式1	地区概況	基本情報、指定緊急避難場所・指定避難所、主な防災関連施設、地震被害予測結果、風水害予測結果、災害危険性の評価、自由記入欄(地域の取り組み等)
様式2	防災アセスメント調査	地震被害予測(震度、液状化、建物全壊率) 風水害被害予測(土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域)
様式3	防災マップ	指定緊急避難場所・指定避難所、主な防災関連施設、町内公民館・集会所、消防団区域、活断層

【出典】
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 8JHs 93」
池田安隆・岡田篤正・後藤秀昭・東郷正美・中田高(2007):1:25,000 都市圏活断層図「梓湖」,国土地理院。
鈴木康弘・千田昇・廣内大助・松多信尚(2020):1:25,000 活断層図「松本(改訂版)」,国土地理院。
廣内大助・澤祥・松多信尚・安江健一(2020):1:25,000 活断層図「信濃池田(改訂版)」,国土地理院。
松多信尚・澤祥・鈴木康弘・中埜貴元・廣内大助(2021):1:25,000 活断層図「諏訪(改訂版)」,国土地理院。
長野県地震被害想定調査(平成 27 年)

3. 地区別防災カルテの使い方

災害発生前

【自治会等で利用する場合】

- ① 地域の危険箇所を把握
- ② 災害の危険がある地域住民への啓発強化
- ③ 避難時の支援や避難方法・避難時期の確認
- ④ 孤立地域の確認

【個人で利用する場合】

- ① 自宅、通勤通学経路、勤務先・通学先、買い物先など、日ごろ滞在する場所や通過する場所の安全性(危険性)、災害の種類等を確認する。
- ② 災害時における避難の必要性について考える。
※災害の起き方は多様なため、複数のケースへの対応を考えておく。
- ③ 避難する場合、避難しない場合の両方について、その後の行動を考える。
★自宅に危険がある等、避難する必要がある場合
・いつ(どのタイミングで、色々なケースを想定)
・どこに(複数の避難所・避難場所)
・どうやって(どの道を通るか、歩いて行けない場合はどうするか?)
※この他、家族との連絡手段や集合場所等を確認しておく
★自宅の方が安全なため、避難しない場合
・孤立の可能性はあるか
・周囲に対して、無事を知らせる手段の確認
★備蓄品、備蓄場所、非常用持ち出し品の確認
※おむつ、常備薬等、家族構成によって、必要なものが変わる。
- ④ 防災マップ(様式3)に避難先・避難経路・注意事項等を書き込み、「我が家の防災カルテ」を作成する。

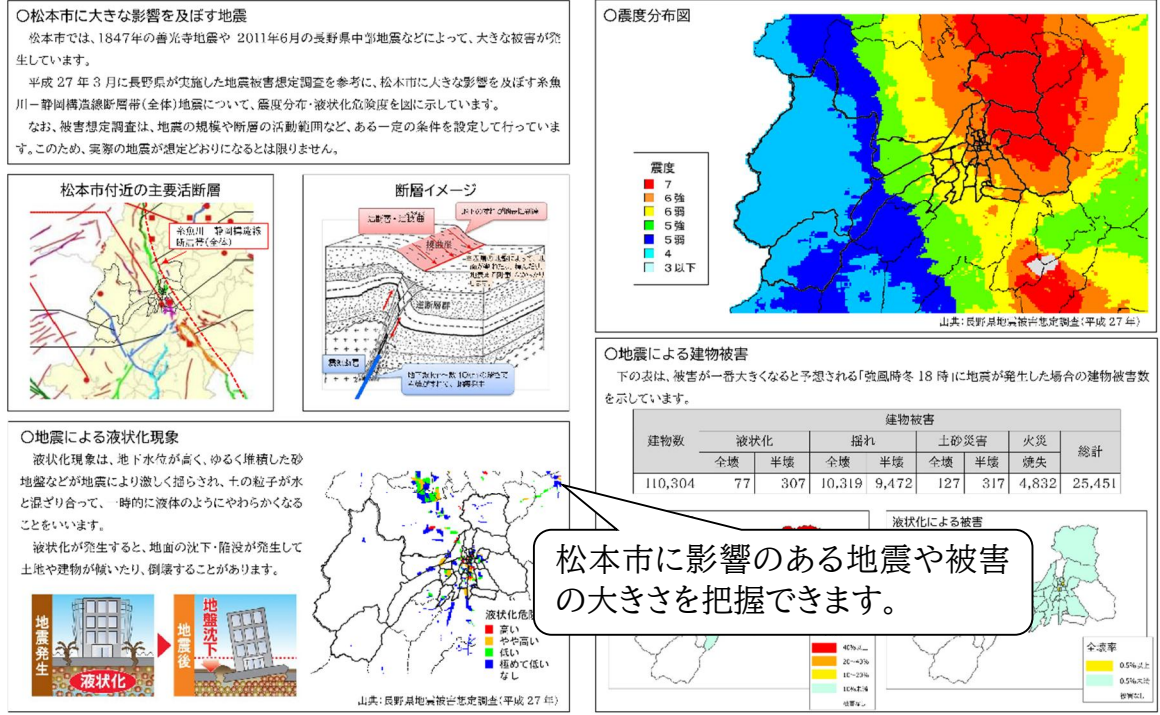
災害時

- ① 災害発生前に準備しておいた「我が家の防災カルテ」をもとに行動する。
- ② 大型台風の接近や豪雨災害時の避難行動は、気象状況と家族の体力などを考えて決める。

～地区別防災カルテの一覧～

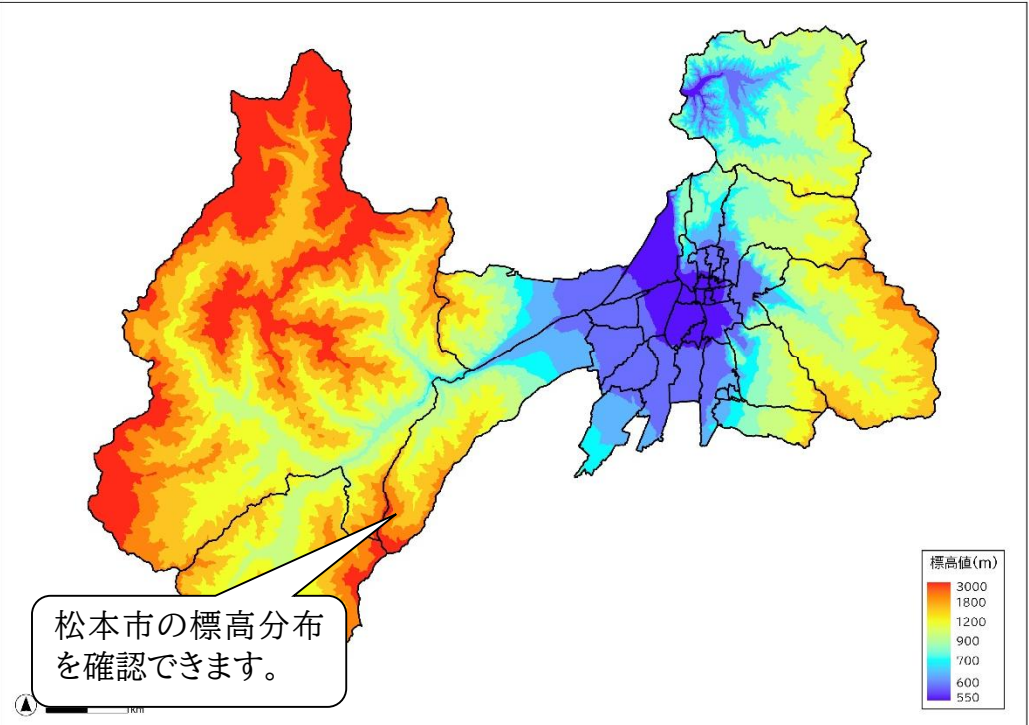
地震被害予測

地震被害予測



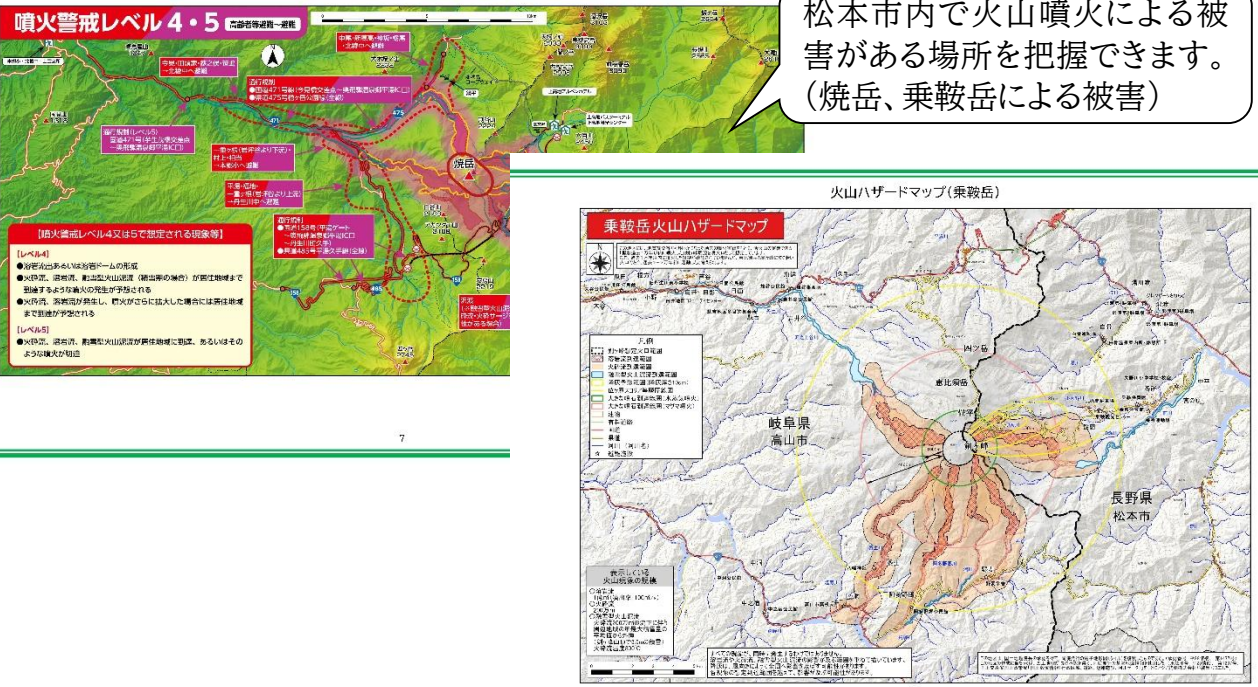
標高マップ

標高マップ



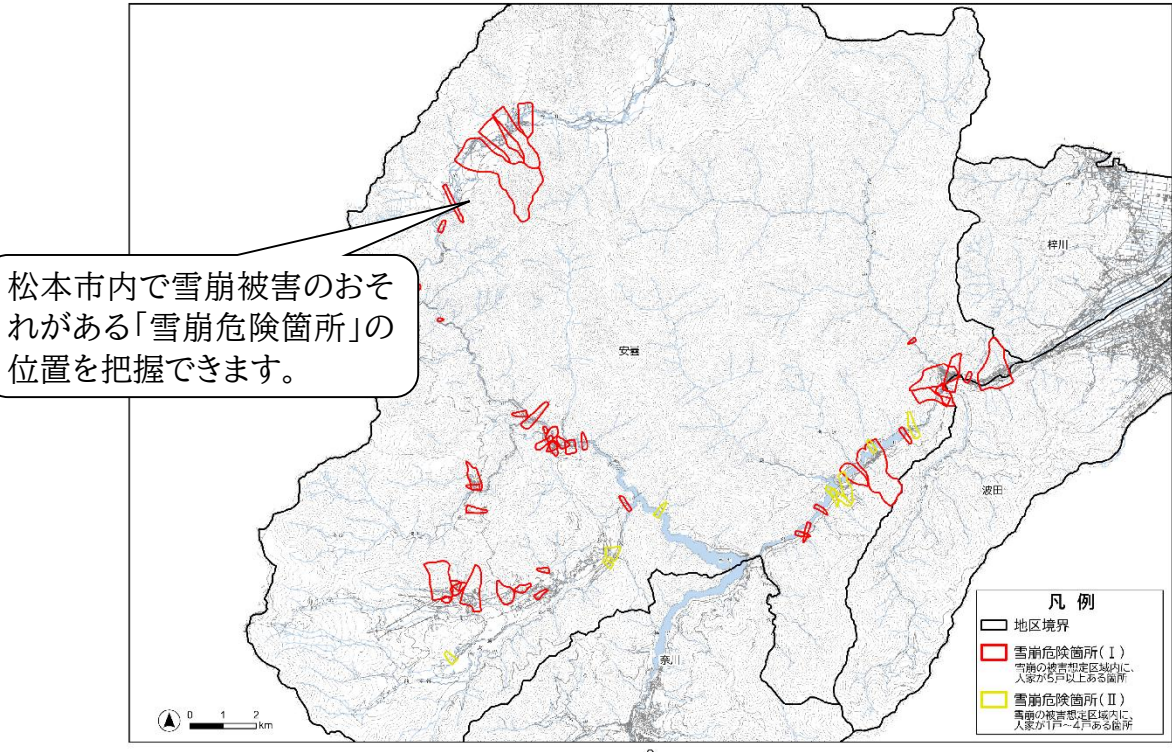
火山ハザードマップ

火山ハザードマップ(焼岳)



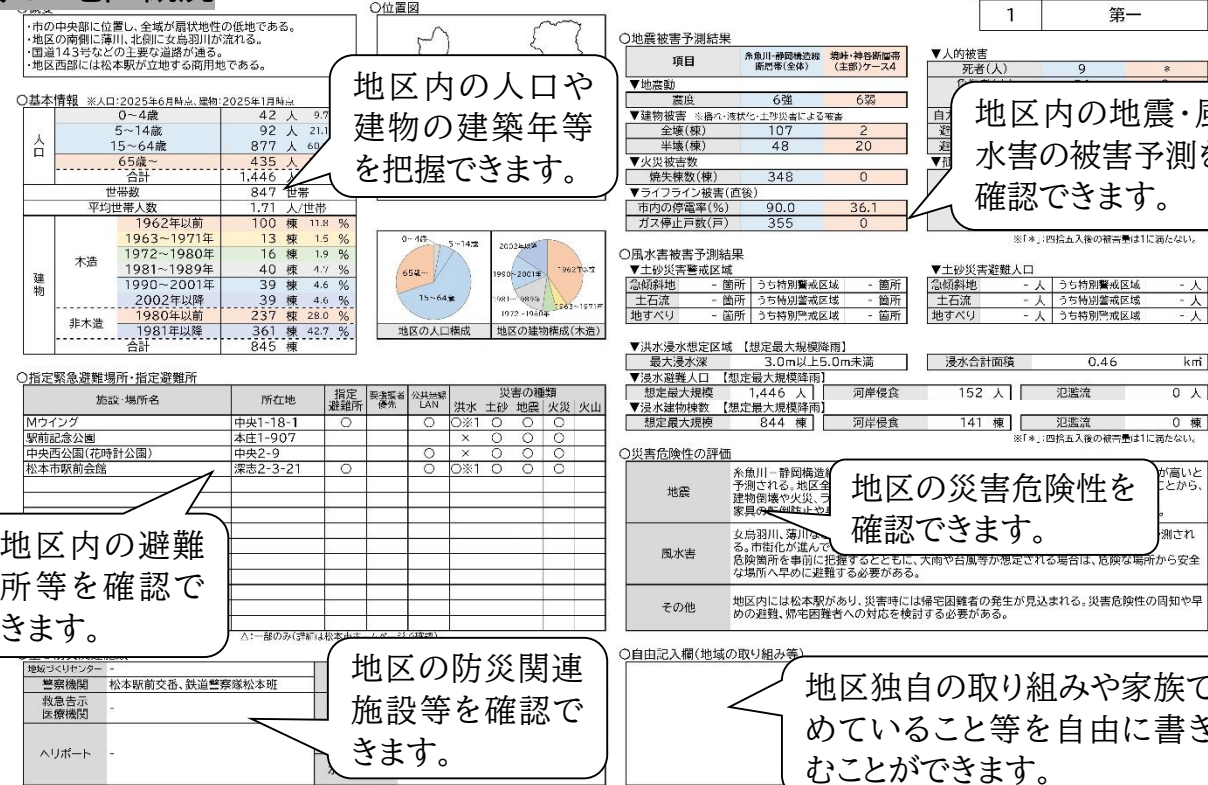
雪崩危険箇所位置図

雪崩危険箇所位置図

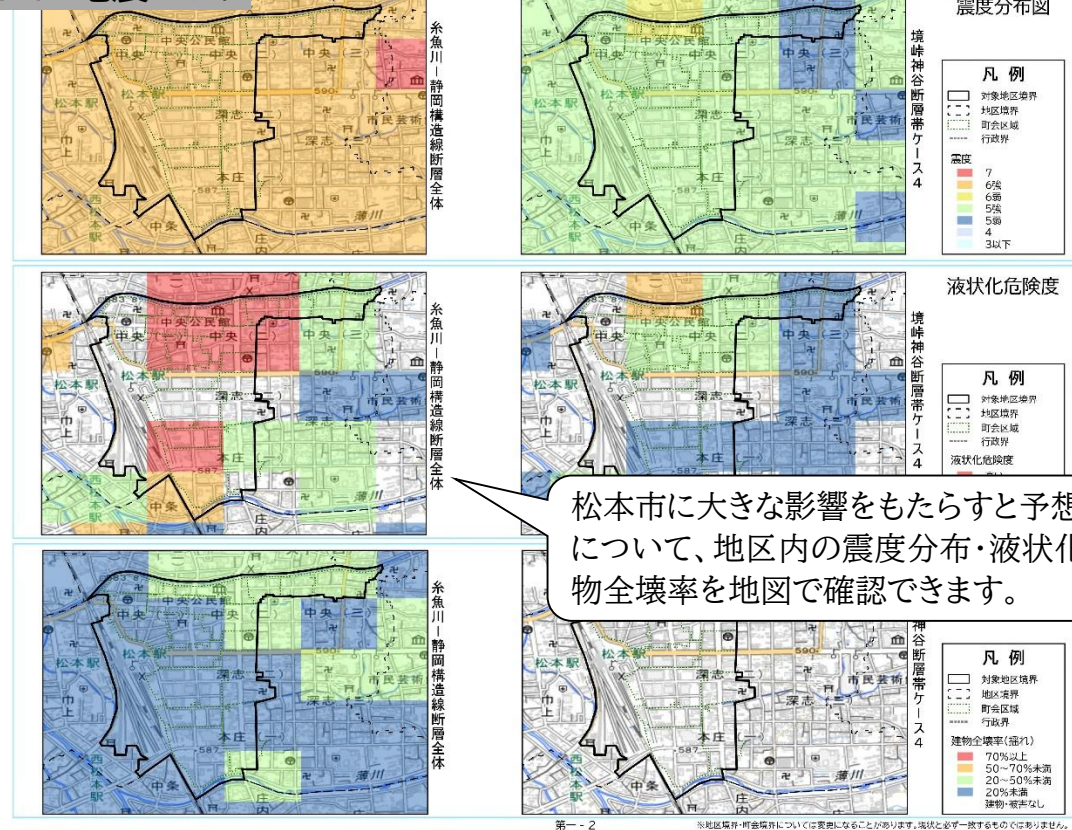


～地区別防災カルテの一覧～

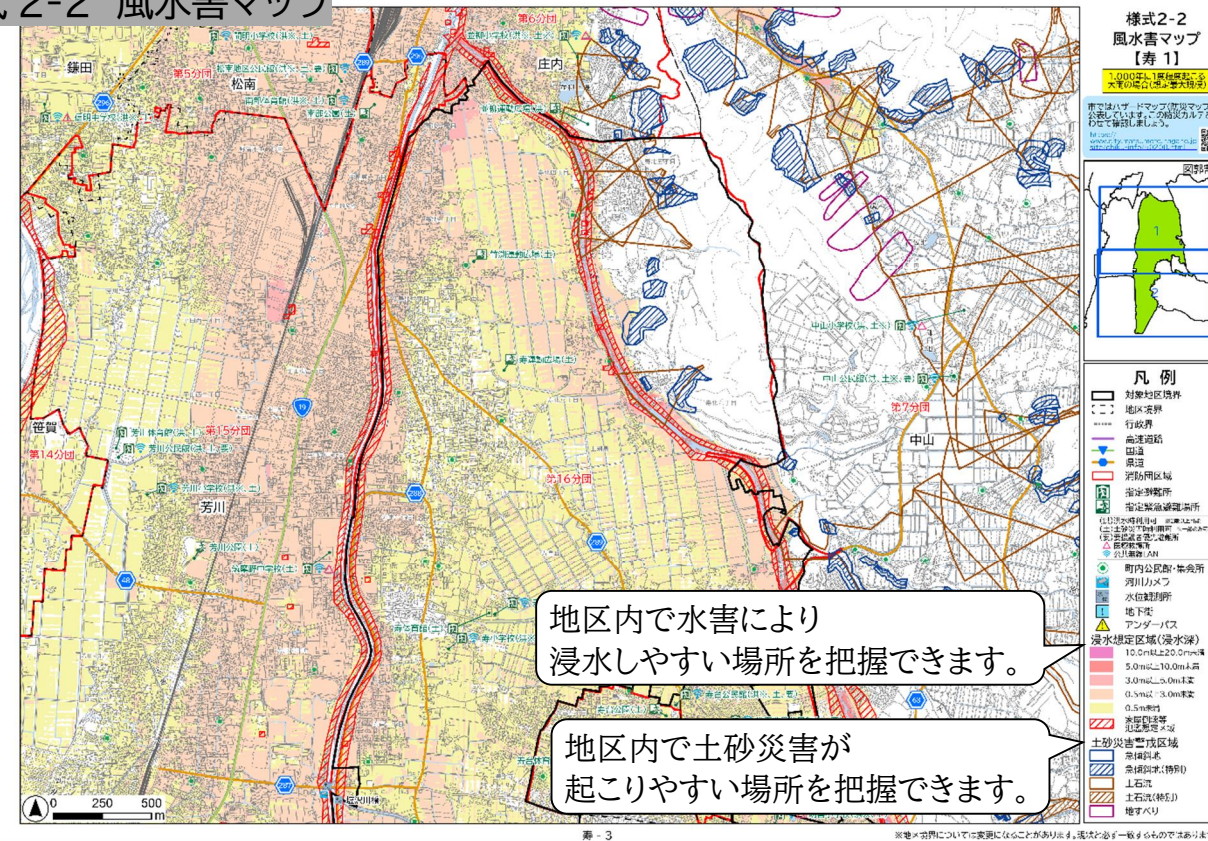
様式 1 地区概況



様式 2-1 地震マップ



様式 2-2 風水害マップ



様式 3 防災マップ



地震被害予測

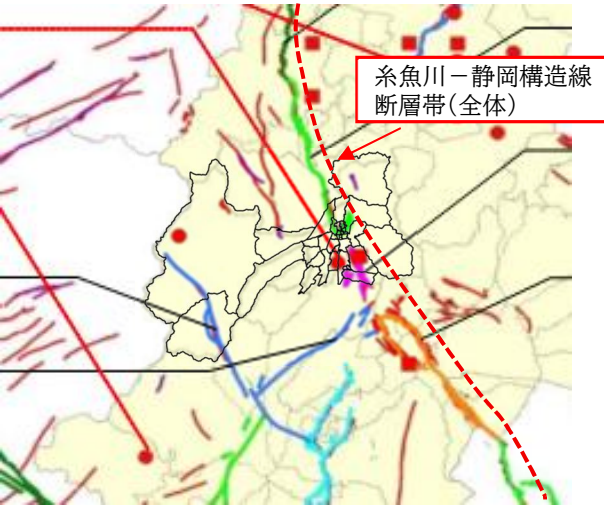
○松本市に大きな影響を及ぼす地震

松本市では、1847年の善光寺地震や 2011年6月の長野県中部地震などによって、大きな被害が発生しています。

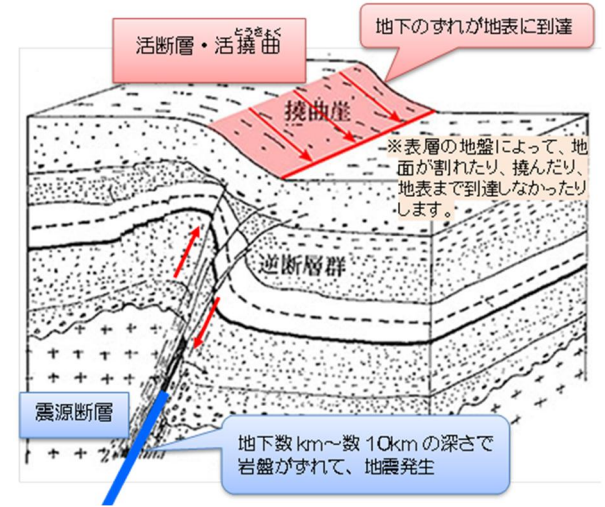
平成 27 年 3 月に長野県が実施した地震被害想定調査を参考に、松本市に大きな影響を及ぼす糸魚川－静岡構造線断層帯(全体)地震について、震度分布・液状化危険度を図に示しています。

なお、被害想定調査は、地震の規模や断層の活動範囲など、ある一定の条件を設定して行っています。このため、実際の地震が想定どおりになるとは限りません。

松本市付近の主要活断層



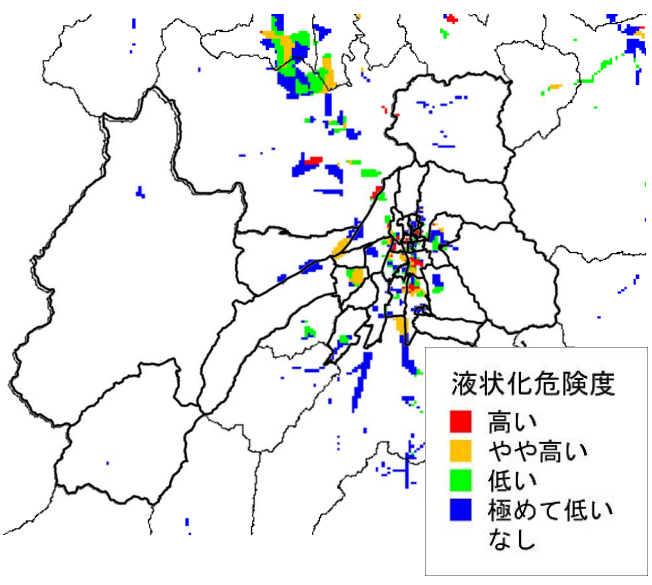
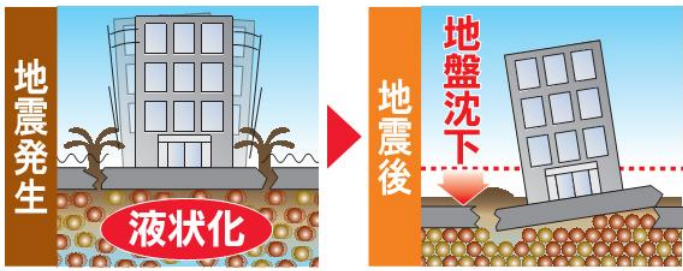
断層イメージ



○地震による液状化現象

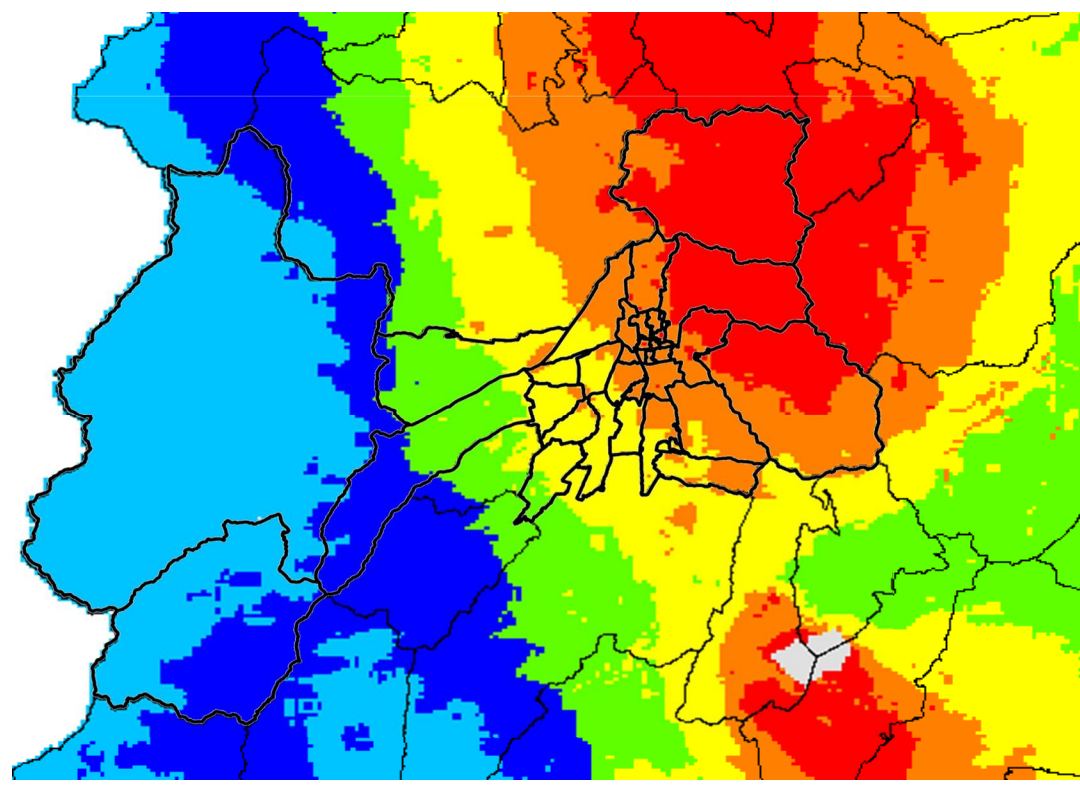
液状化現象は、地下水位が高く、ゆるく堆積した砂地盤などが地震により激しく揺らされ、土の粒子が水と混ざり合って、一時的に液体のようにやわらかくなることをいいます。

液状化が発生すると、地面の沈下・陥没が発生して土地や建物が傾いたり、倒壊することがあります。



出典：長野県地震被害想定調査(平成 27 年)

○震度分布図



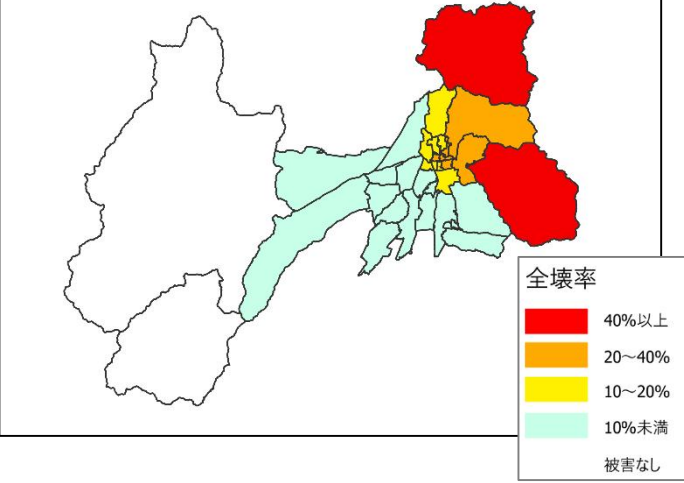
出典：長野県地震被害想定調査(平成 27 年)

○地震による建物被害

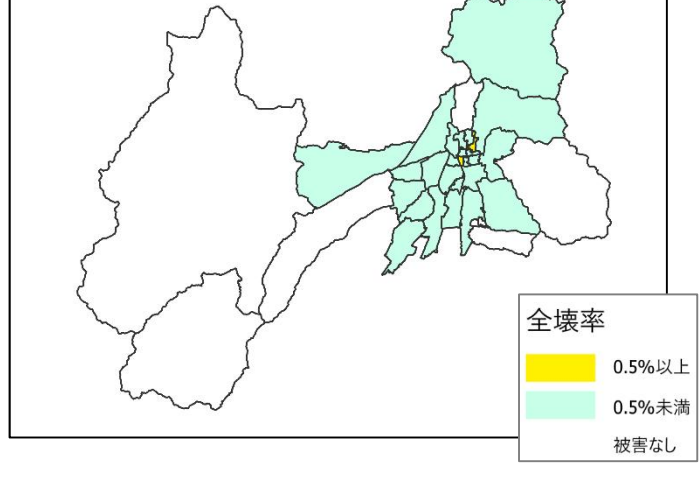
下の表は、被害が一番大きくなると予想される「強風時冬 18 時」に地震が発生した場合の建物被害数を示しています。

建物数	建物被害							
	液状化		揺れ		土砂災害		火災	総計
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	焼失	
110,308	77	318	11,288	10,768	124	292	5,272	28,139

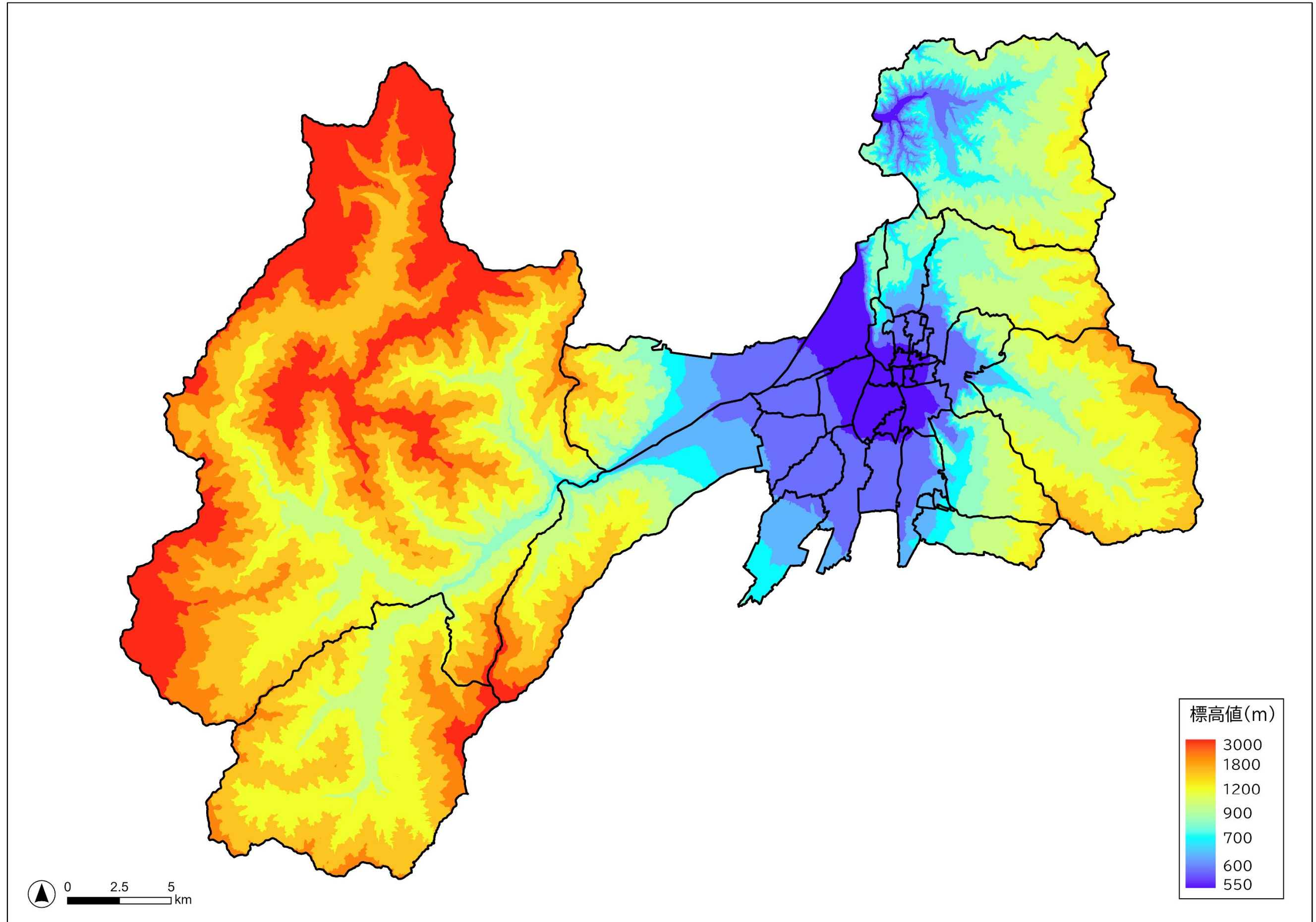
揺れによる被害



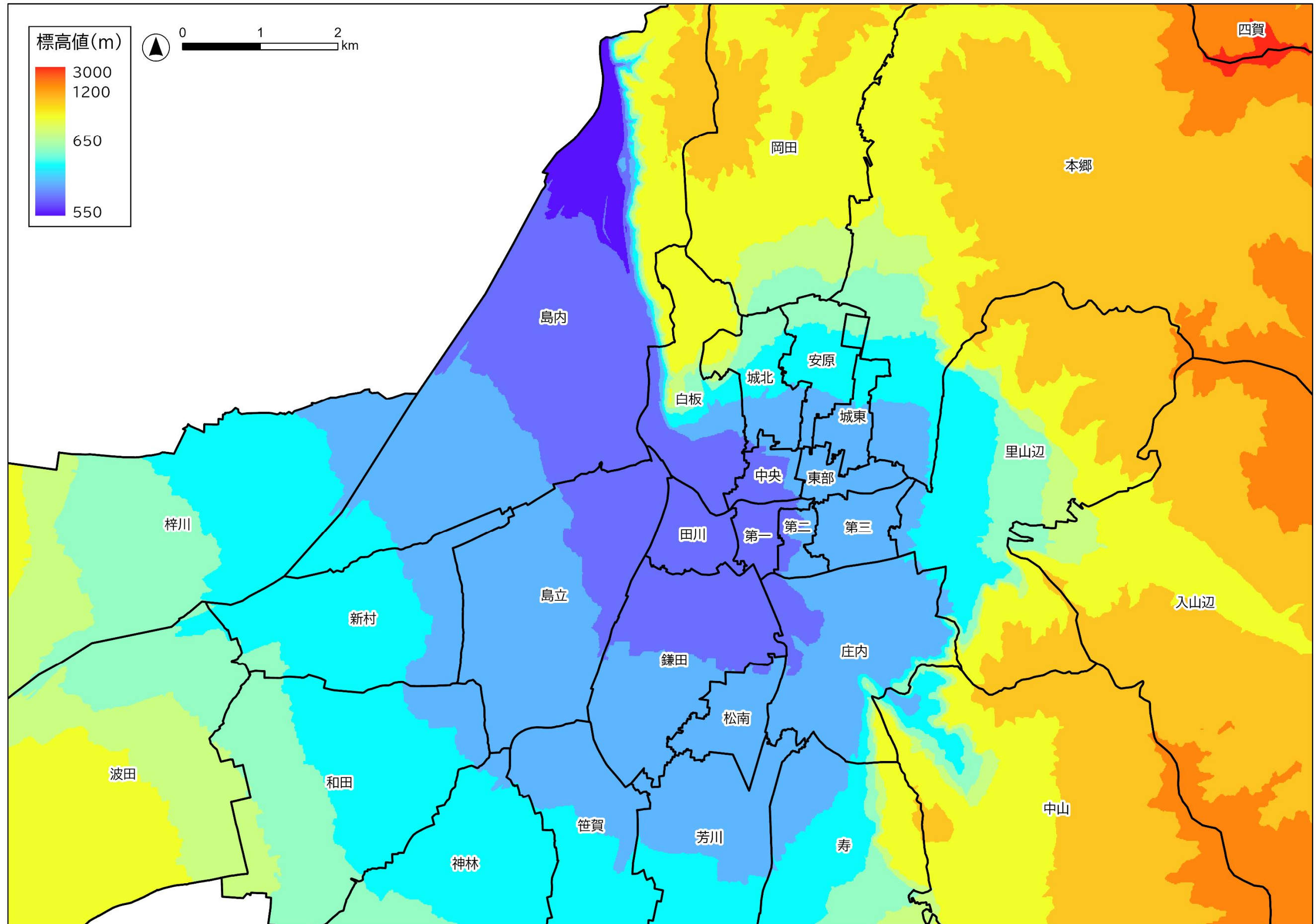
液状化による被害



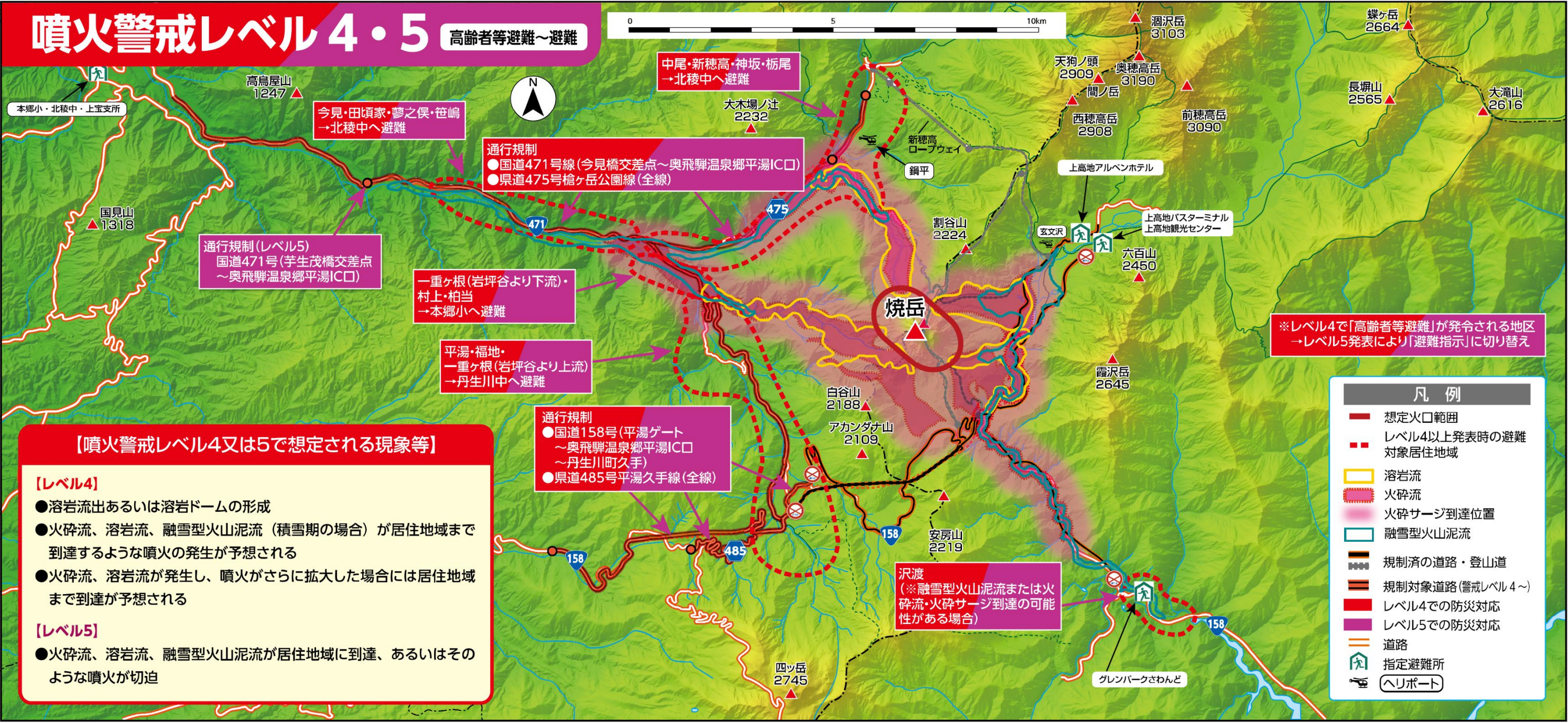
標高マップ



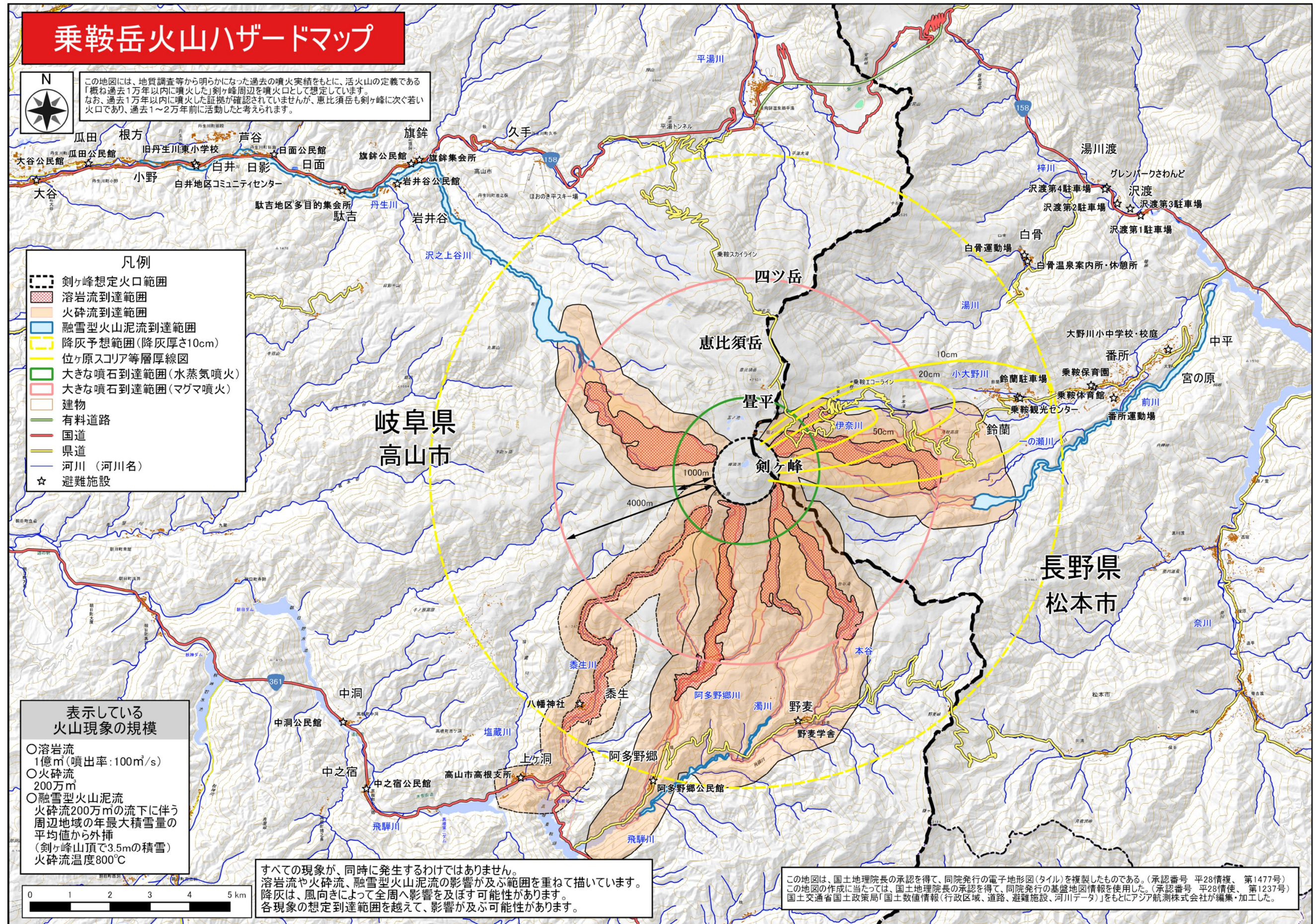
標高マップ(低地部拡大)



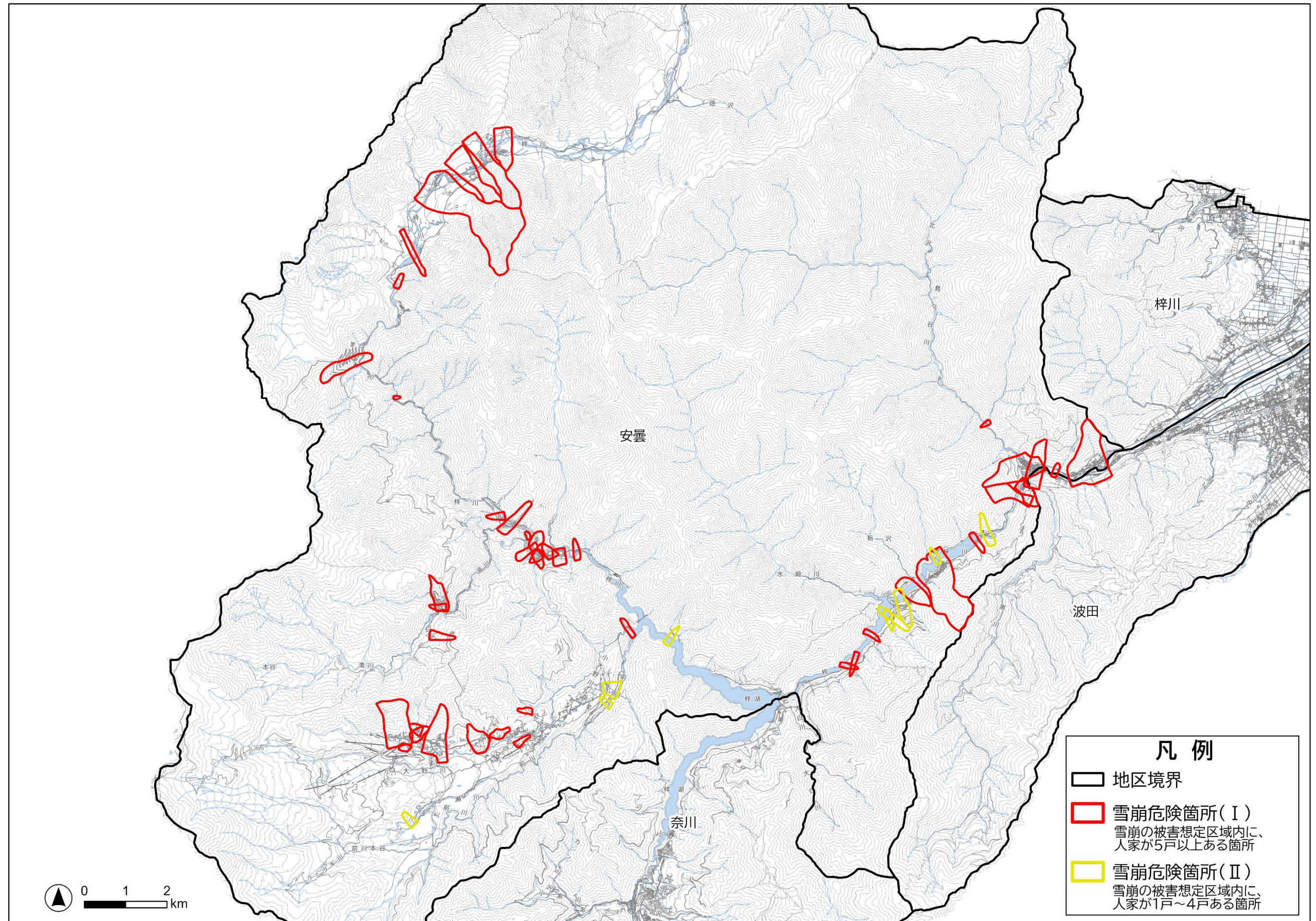
火山ハザードマップ(焼岳)



火山ハザードマップ(乗鞍岳)



雪崩危険箇所位置図



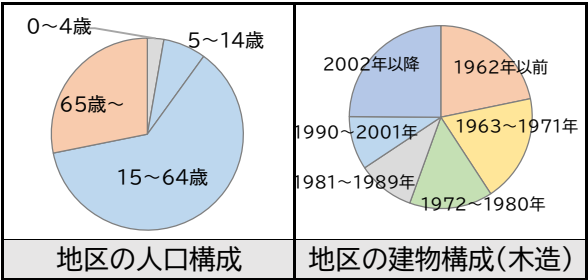
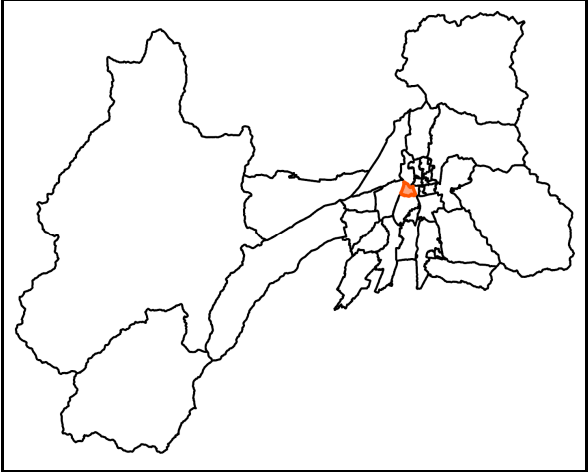
○概要

- ・松本駅の南西に位置し、大部分が扇状地性の低地である。
- ・地区の東側に田川、西側に奈良井川が流れる。
- ・国道19号などの主要道路やJR篠ノ井線、アルピコ交通上高地線が通る。
- ・住宅地や商業地が分布する。

○基本情報 ※人口：2025年6月時点、建物：2025年1月時点

人口	0～4歳		109 人	9.9 %
	5～14歳		282 人	25.6 %
	15～64歳		2,418 人	61.8 %
	65歳～		1,103 人	28.2 %
	合計		3,912 人	
世帯数			2,055 世帯	
平均世帯人数			1.90 人/世帯	
建物	木造	1962年以前	211 棟	15.2 %
		1963～1971年	184 棟	13.2 %
		1972～1980年	143 棟	10.3 %
		1981～1989年	98 棟	7.1 %
		1990～2001年	92 棟	6.6 %
	非木造	2002年以降	241 棟	17.3 %
		1980年以前	122 棟	8.8 %
		1981年以降	299 棟	21.5 %
	合計		1,390 棟	

○位置図



○地震被害予測結果

項目	糸魚川-静岡構造線断層帯(全体)	境峠・神谷断層帯(主部)ケース4
▼地震動		
震度	6強	5強
▼建物被害 ※揺れ・液状化・土砂災害による被害		
全壊(棟)	176	1
半壊(棟)	237	21
▼火災被害数		
焼失棟数(棟)	4	0
▼ライフライン被害(直後)		
市内の停電率(%)	90.0	36.1
ガス停止戸数(戸)	380	0

○風水害被害予測結果

急傾斜地	- 箇所	うち特別警戒区域	- 箇所
土石流	- 箇所	うち特別警戒区域	- 箇所
地すべり	- 箇所	うち特別警戒区域	- 箇所

▼洪水浸水想定区域 【想定最大規模降雨】

最大浸水深	5.0m以上10.0m未満
-------	---------------

▼浸水避難人口 【想定最大規模降雨】

想定最大規模	3,894 人
--------	---------

▼浸水建物棟数 【想定最大規模降雨】

想定最大規模	1,390 棟
--------	---------

10	田川
----	----

▼人的被害

死者(人)	11	0
負傷者(人)	64	2
重傷者(人)	18	0
自力脱出困難者(人)	92	0
避難者(当日)(人)	917	29
避難者(最大)(人)	1,514	97

▼孤立可能性がある集落を含む町会

町会名	なし
-----	----

※「*」:四捨五入後の被害量は1に満たない。

▼土砂災害避難人口

急傾斜地	- 人	うち特別警戒区域	- 人
土石流	- 人	うち特別警戒区域	- 人
地すべり	- 人	うち特別警戒区域	- 人

浸水合計面積	0.97	km ²
--------	------	-----------------

○指定緊急避難場所・指定避難所

施設・場所名	所在地	指定避難所	要援護者優先	公共無線LAN	災害の種類				
					洪水	土砂	地震	火災	火山
田川小学校	渚1-5-34	○		○	×	○	○	○	
田川公民館	渚3-2-7	○	○	○	○※1	○	○	○	

※1:2階以上のみ ※2:融雪型火山泥流の場合 △:一部のみ(詳細は松本市ホームページで確認)

○主な防災関連施設

地域づくりセンター	田川地区地域づくりセンター	消防機関	渚消防署
警察機関	松本警察署		
救急告示医療機関	丸の内病院、松本協立病院	医療救護所	田川小学校
ヘリポート	-	河川カメラ	女鳥羽川水位観測局、渚水位観測局
		水位観測所	渚、田川大橋

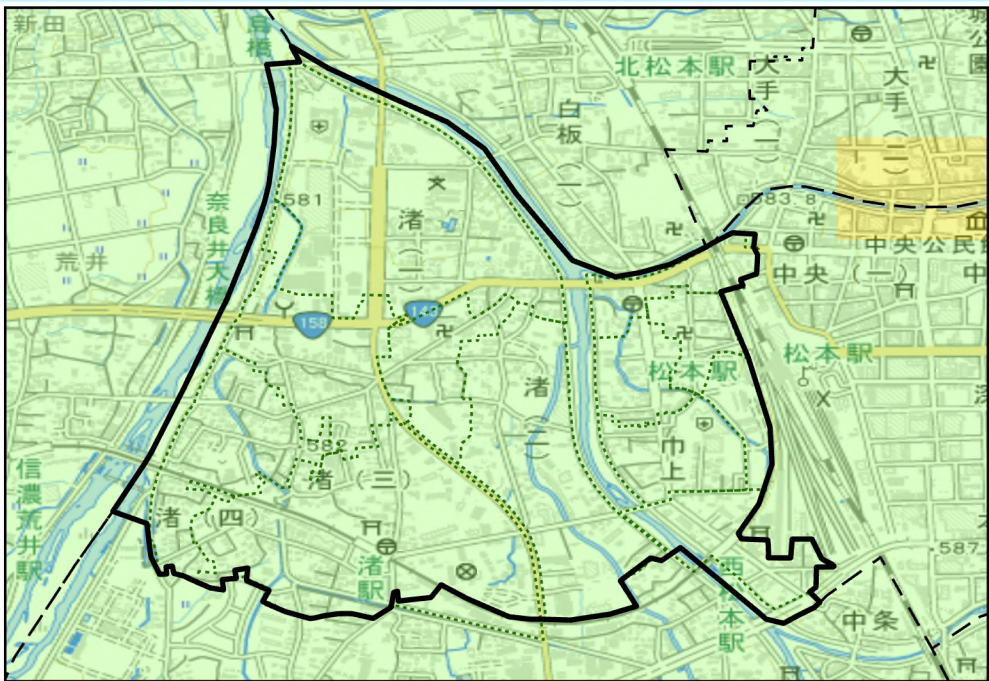
○災害危険性の評価

地震	糸魚川－静岡構造線断層帯地震では、最大震度6強の揺れに加え、一部地域では、液状化の可能性が高いと予測される。1980年以前の旧耐震木造建築物が多く、建物倒壊被害や火災、ライフライン被害が予測される。家具の転倒防止や身の回りの整理、感震ブレーカーの設置など防災対策が重要となる。
風水害	田川、奈良井川などの洪水で、地区全域の浸水が想定され、浸水避難人口は約99.5%と予測される。市街化が進んでいるため、豪雨時の排水能力を超えた内水浸水も発生しやすい。危険箇所を事前に把握するとともに、大雨や台風等が想定される場合は、危険な場所から安全な場所へ早めに避難する必要がある。
その他	地区内には医療機関や松本駅があるため、局所的な人の集中や往来が多くある。施設利用者や一時滞在者への災害危険性の周知に加え、帰宅困難者対応や避難誘導の計画を事前に検討する必要がある。

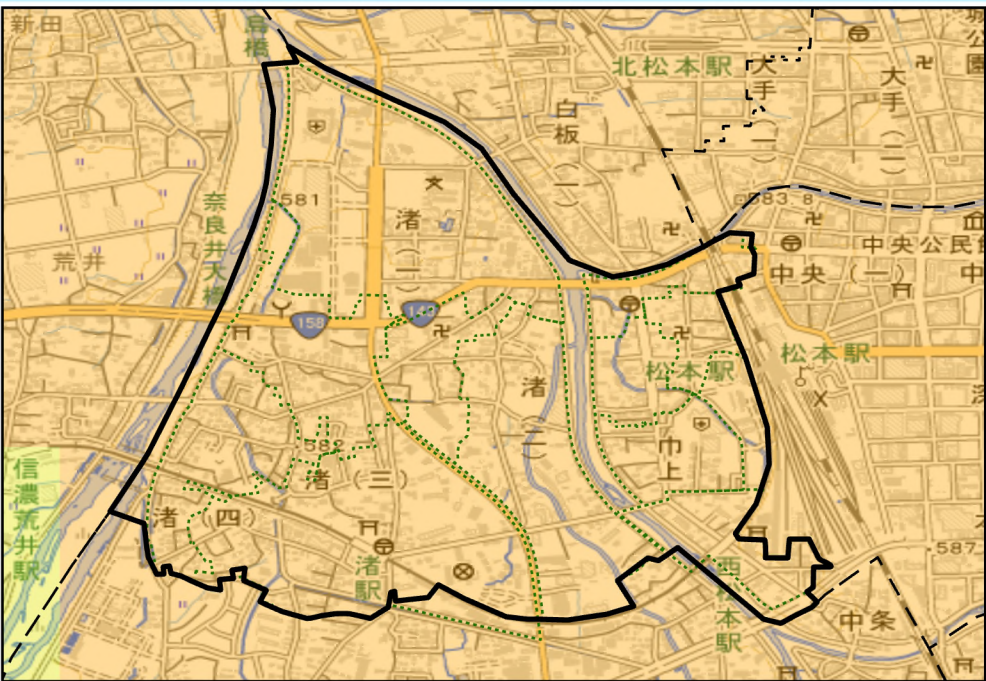
○自由記入欄(地域の取り組み等)

震度分布図

境峠神谷断層帯ケース4

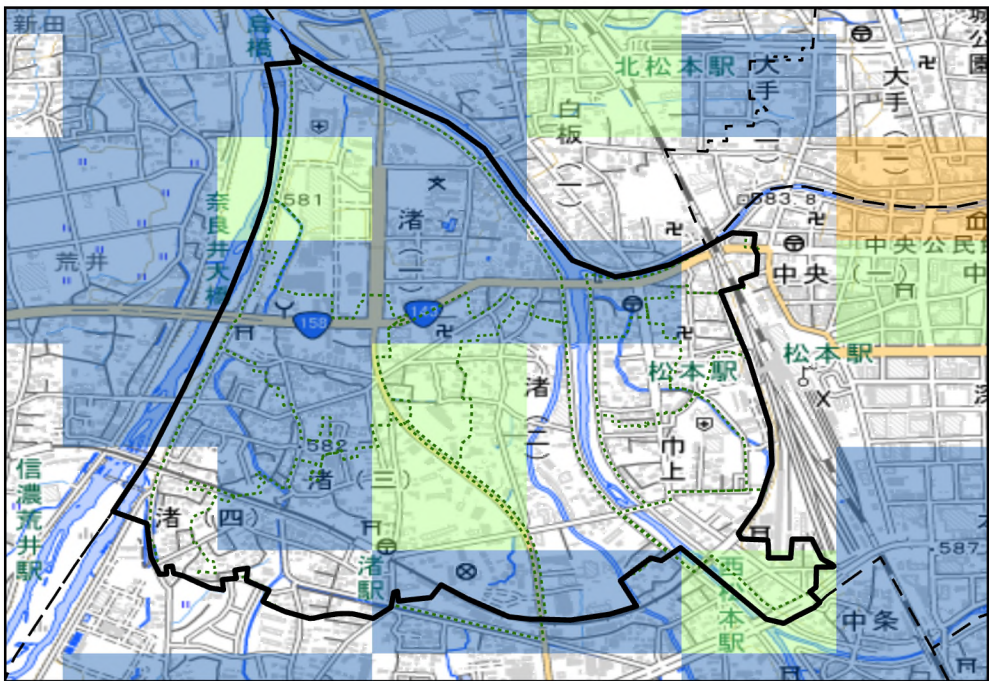


糸魚川―静岡構造線断層全体

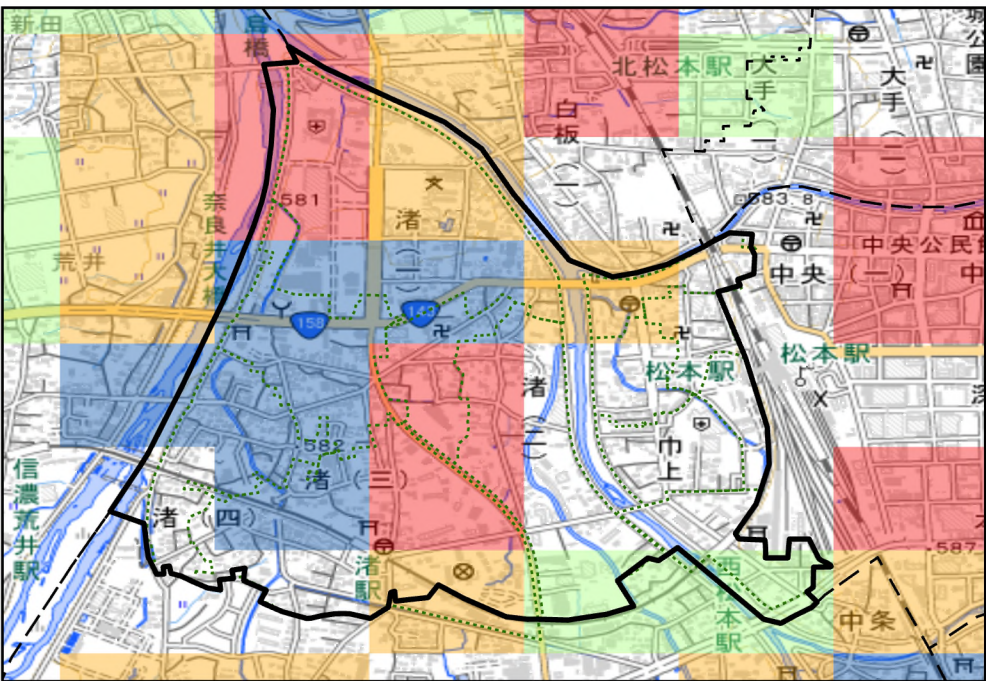


液状化危険度

境峠神谷断層帯ケース4

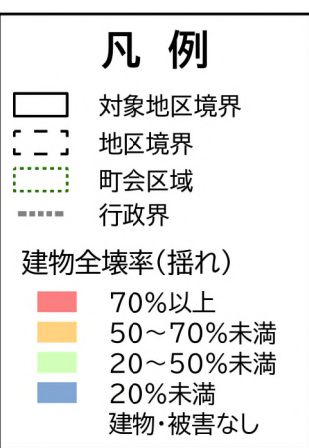
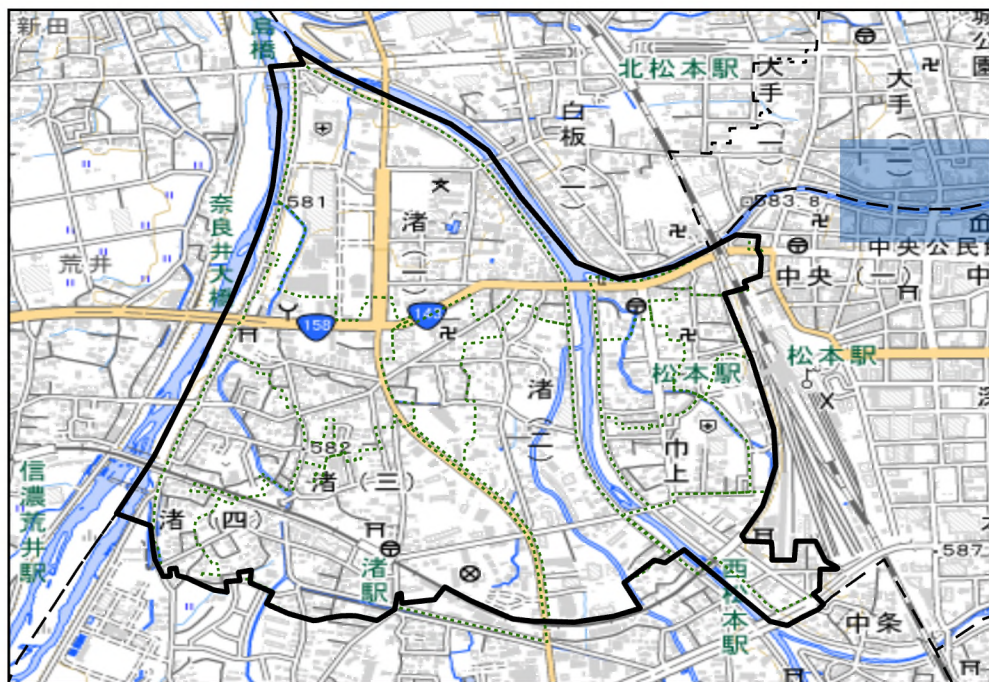


糸魚川―静岡構造線断層全体

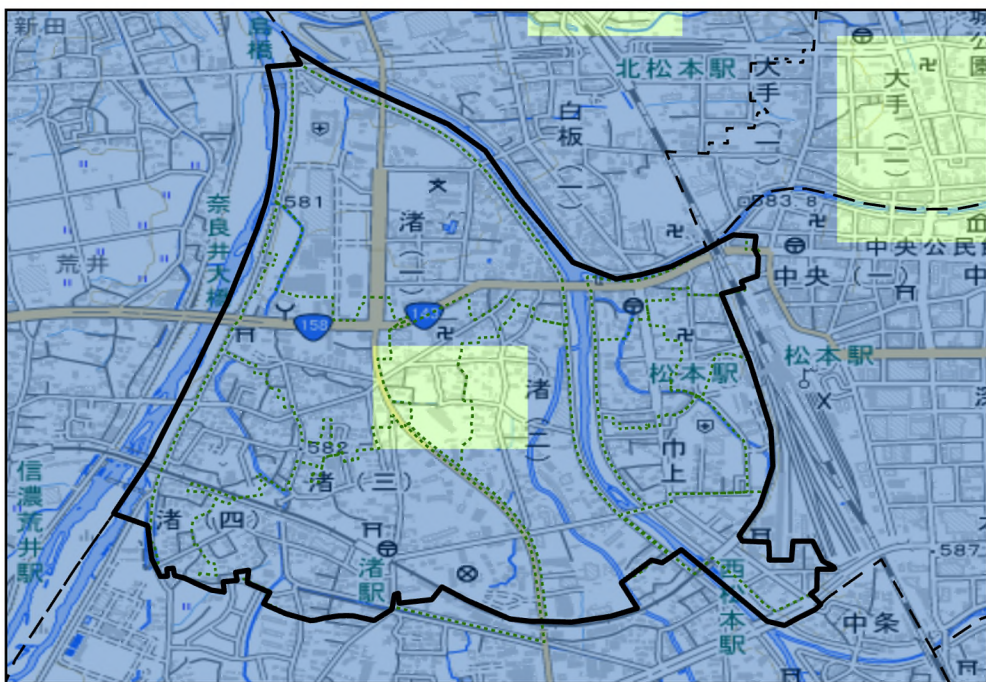


建物全壊率
(揺れ)

境峠神谷断層帯ケース4

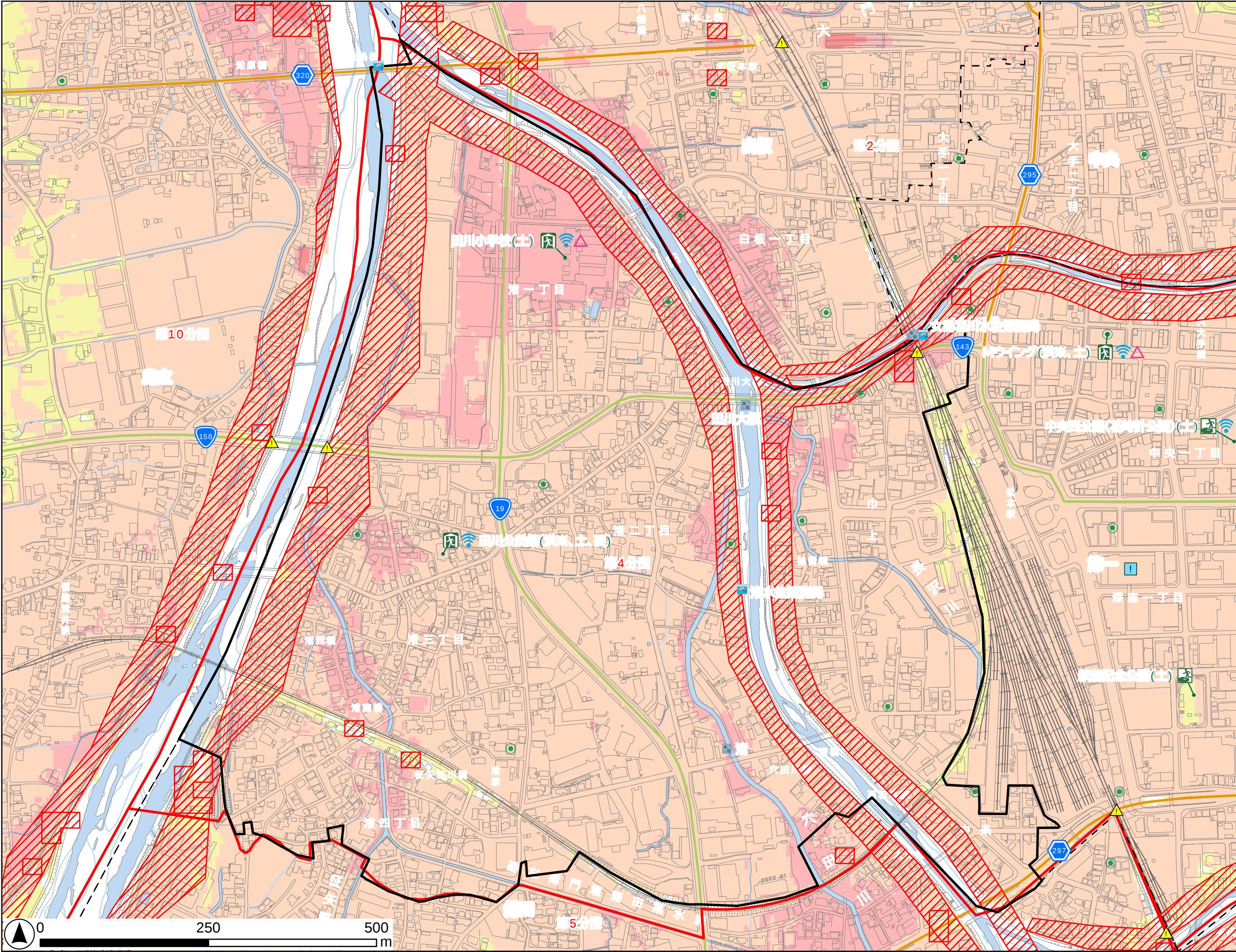


糸魚川―静岡構造線断層全体



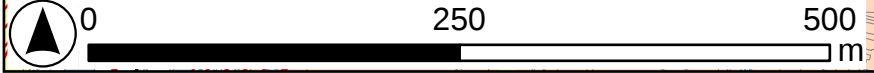
1,000 1 ()

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/site/chiku-info/50200.html>

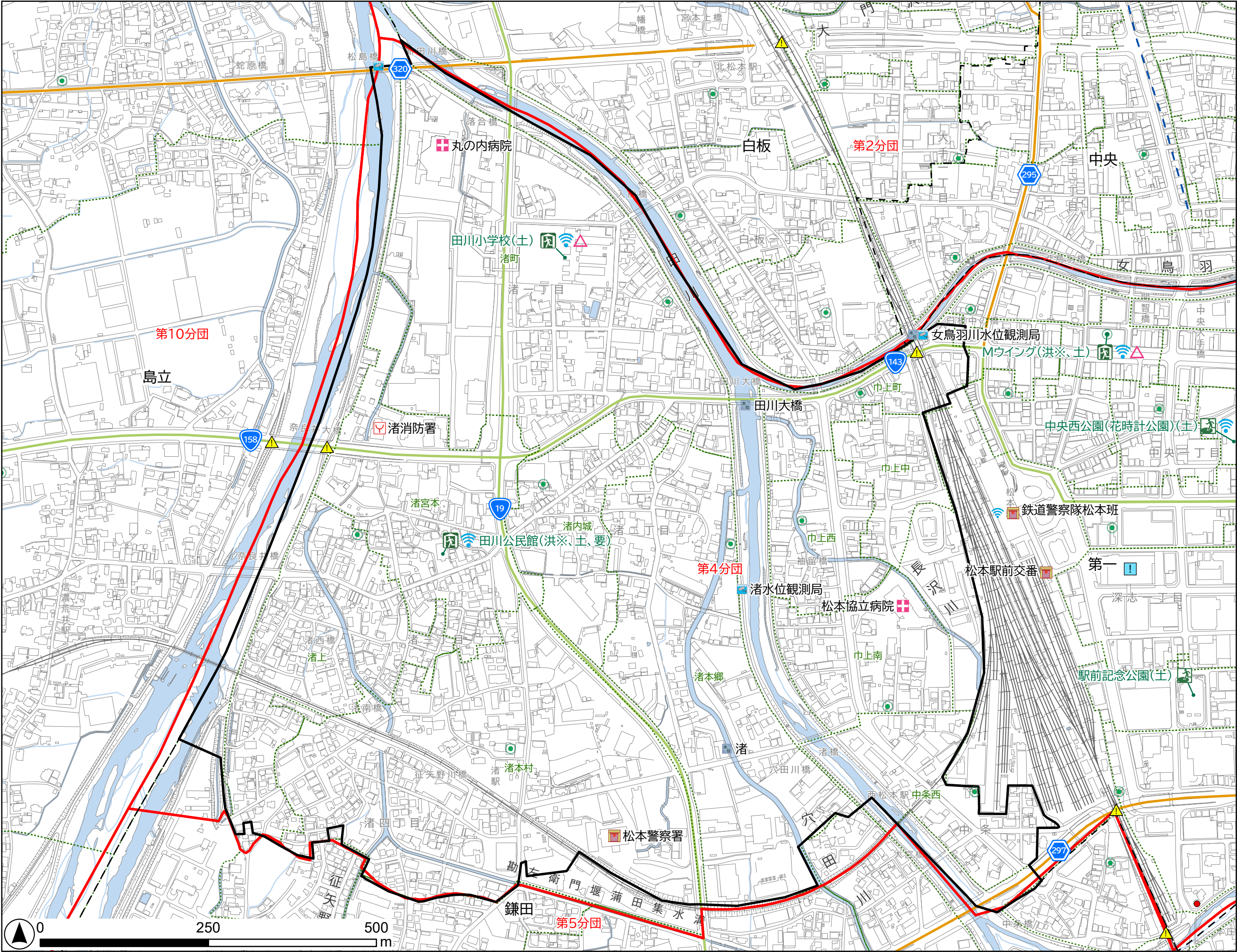


LAN

10.0m	20.0m
5.0m	10.0m
3.0m	5.0m
0.5m	3.0m
0.5m	



様式3
防災マップ
【田川】



凡 例

	対象地区境界
	地区境界
	町会区域
	行政界
	高速道路
	国道
	県道
	消防団区域
	指定避難所
	指定緊急避難場所

(洪)洪水時利用可 ※2階以上可能
(土)土砂災害時利用可 ※一部のみ可能
(要)要援護者優先避難所

	町内公民館・集会所
	市役所
	警察
	消防本部・消防署
	消防団詰所
	救急告示医療機関
	医療救護所
	ヘリポート
	公共無線LAN
	河川カメラ
	水位観測所
	地下街
	アンダーパス

活断層

	活断層
	活断層(位置不確実)
	伏在活断層
	推定活断層
	撓曲変形